

九
九

決裁留定

[illegible]

西條 通條

此乃了浦河沿岸軍系謀略、
首題ノ説明書於部及送付候條必要
ノ部隊、配賦相成度候也

踏落地雷ヲ浦河岸中内候以テ要ノ也

九二九

八月十三日

1793

踏
落
地
雷
説
明
書

大正九年七月
陸軍技術本部第一部

踏落地雷説明書

第一 用途

踏落地雷ハ敵ノ近接又ハ通過ヲ豫期スル地點ヲ選ヒテ之ヲ設置ス而シテ敵兵来リテ之ヲ踏ムヤ其ノ瞬間爆發ヲ生起シ破片及爆焰ニ依リ悲惨ノ傷痕ヲ與ヘ死ニ至ラシムルモノトス然レトモ其ノ真ノ目的ハ敵ヲ斃スニ非スシテ敵ニ危虞ノ念ヲ與ヘ依テ以テ敵ノ近接ヲ防止シ又ハ通過ヲ阻止スルニアリ

第二 結構 附圖参照

本地雷ハ信管及體ヨリ成リ體内ニハ黄色藥ヲ收容ス、
一 信管

信管ハ信管坐及信管本體ヨリ成リ其ノ上部ハ護謨薄板ヲ以テ覆ヒ吸濕ヲ豫防ス

1. 信管坐 信管坐ハ有底筒體ニシテ下部ニハ體ノ蓋ニ吻合スヘキ牡螺ヲ刻ス底ノ中央ニハ雷管ヲ收容シ底ノ上下兩面ニ

錫板ヲ貼付シテ之ヲ其ノ位置ニ保持ス又雷管ノ下面ニ接シ
 テ雷管永盛ヲ收容シ底螺ヲ以テ之ヲ固定ス
 信管坐ニ設クル錐部ハ信管坐ヲ體ノ蓋ニ螺着スル際之ヲ以
 テ浸脂環ヲ壓迫緊定シ以テ藥包ノ吸濕ヲ防クノ用ヲナス
 2. 信管本體 信管本體ハ円筒状ヲナシ外部ハ有孔隔壁ニ依テ
 上下ニ室ニ區分セラレ内部ニ發火裝置ヲ收容ス而シテ上室
 ニハ頭蓋駐螺孔ヲ穿チアリ又上端ニハ護謨薄板縛着用ノ溝
 ヲ設ク
 3. 發火裝置 發火針頭蓋上方發條及下方發條ヨリ成ル
 イ、撃針ハ其ノ上半部ニ支鉸及同發條ヲ收容シ下端ニハ錐部
 及針ヲ有ス而シテ支鉸ハ其ノ發條ノ為其ノ端末ヲ常ニ外
 方ニ向テ壓迫ス
 口、頭蓋ハ円筒形ニシテ内部ハ上方發條及撃針頭部ノ室ヲナ
 ス又側面ニ長窓ヲ穿ツ頭蓋駐螺ノ先端ハ此ノ長窓ニ嵌入
 シアルヲ以テ頭蓋ハ之ヲ上方ヨリ壓スル時ハ信管本體ニ

二體

1. 體

體ハ鑄鐵製ニシテ内部ニ藥包一壓非黄色藥ヲ收容ス爆發
ニ方リテハ信管及蓋ト共ニ數多ノ破片トナリ飛散スルモノ
トス

2. 體

蓋ハ鑄鐵製ニシテ體ニ螺着セラル中央ニハ信管坐
ヲ螺着スヘキ貫通螺絲孔ヲ穿ツ又螺絲孔ノ上部ニハ階段部
ヲ設ケ浸脂環ヲ收容スル室トナス

ハ上方發條ハ頭蓋内ニ壓縮シテ收容セラレ常ニ頭蓋ノ底ト
關シ降下シ得ルモノトス
擊針上端トラ壓スレトモ擊針ノ支鉸ハ其ノ先端ヲ以テ信
管本體ノ隔壁ニ鉤スルヲ以テ擊針ハ降下スルコト能ハス
又頭蓋ハ頭蓋駐螺ノ為上昇スルコトヲ得ス
ニ下方發條ハ擊針ヲ抱キ擊針鋸部ト信管本體隔壁トノ間ニ
壓縮シテ收容セラレ常ニ擊針下方ニ壓ス然レトモ支鉸ノ
先端信管本體ノ隔壁ニ鉤シアル為擊針ハ降下スルヲ得ス

第三 機能

頭蓋上端ヲ踏ミ若ハ之ニ力ヲ加フレハ頭蓋ハ上方發條ヲ壓縮シ
 テ降下ス同時ニ擊針支鉸ノ外方斜面ハ頭蓋ノ下縁ニ依リ壓セラ
 ル之力為支鉸先端ハ其ノ發條ヲ壓縮シテ内方ニ旋回シ隔壁トノ
 鉤合ヲ解ク茲ニ於テ擊針ハ上下兩發條ノ彈撥力ニ依リ下方ニ突
 進シ針ハ雷管ヲ衝擊シテ發火セシメ雷永壺ノ起爆ニ依リ藥包ハ
 爆發ス

第四 貯藏及運搬

本踏落地雷ハ次ノ如クニ組ニ分離シ各別ニ之ヲ取扱ヒ且貯藏シ
 設置スル時迄ハ決シテ兩者ヲ結合スヘカラス
 人體ニ信管坐雷管及雷ノミヲ取付ケ其ノ口ニコルクノ假栓ヲ施

シタルモノ

口信管本體ニ信管本體ニ各部品ヲ結合セルモノ
 又ニ護膜薄板ヲ結着セルモノ

第五 使用法

埋設位置ヲ決定セハ地ヲ掘リ體ニ信管坐ヲ螺着セルモノヲ檢テ

施シタマフ地中ニ入レテ土ヲ被セ次ニ「ル儘ニ支銀シ先端ハ確實ニヲ静ニ挿入シ次ニ上方ヨリ護謄輪ヲ頭蓋ニ」
 如クサル挿入シテ之ヲ以テ護謄薄板ヲ信管坐上端ノ溝ニ緊縛ス護謄輪ニ箇ヲ挿入シ終レハ土ヲ信管本體ノ上端ニ達スル迄被セ附
 此ヲ成ル可ク自然地ト同シク粧ヒ敵ノ注意ヲ喚起セサル如クシテ埋設ヲ終ル
 埋設作業ニ於テ頭蓋ノ上端ヲ壓セサル事絶對ニ必要ナリ

第六 危害豫防

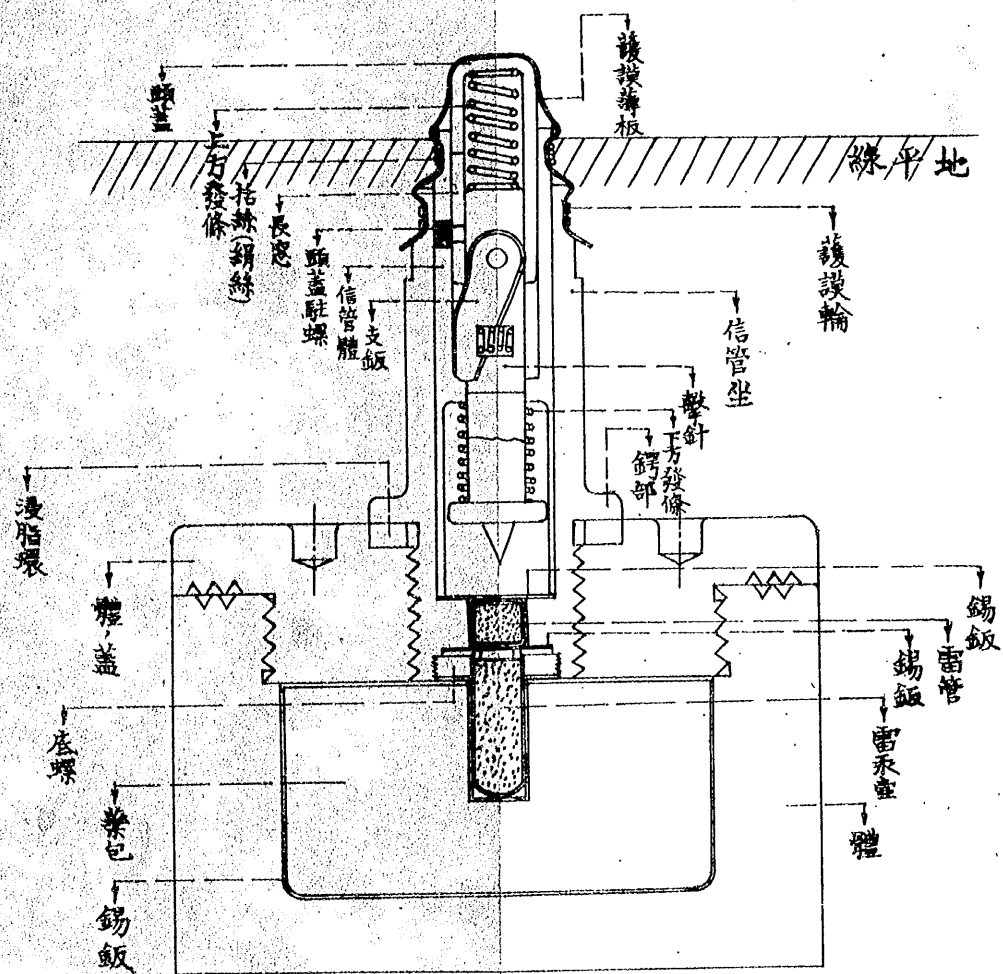
一、本地雷ハ次ノ如クニ組ニ分離シ各別ニ之ヲ取扱ヒ設置スル時
 迄ハ決シテ兩者ヲ結合スヘカラス
 イ、體ニ信管坐雷管及商ノミヲ取付ケ其ノ口ニ「ゴル」クノ假栓ヲ
 施シタルモノ
 ロ、信管本體ニ信管本體ニ各部品ヲ結合シ且
 ニ信管本體ヲ信管坐ニ挿入セル後ハ頭蓋上端ヲ壓スヘカラス特
 ニ埋設作業ニ於テ此ノ注意ヲ必要トス

664T

三、設置セハ設置位置ノ詳細圖例ハ何ト何ト何トノ
製シ置ケラ要ス之レ徹収作業ノ際不慮ノ危害ヲ豫防スル為極
メテ緊要ナレハナリ
設置位置ハ綿密ニ友軍ニ通報シ且之ヲ徹底セシメ友軍ヲシテ
不慮ノ危害ヲ蒙ルコトナカラシムルヲ要ス

008T

踏落地雷



(1)